

令和6年7月19日

保護者様

清新第二中学校  
校長 白石 亨

## 夏季休業中の宿題の縮減について

日頃より保護者の皆様には、本校の教育に対しましてご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。さて、いよいよ明日からは長い夏季休業となります。夏季休業日42日間、前後の土日を入れますと連続44日間もの休みとなります。

学校から離れ、ご家庭で過ごす夏休みですが、保護者の皆様が一番心配することは学習かも知れません。このことも踏まえ、例年、学校としては宿題をある程度の量を出していました。学校がなくとも、毎日、規則正しく、生徒が学習に取り組むことを期待してのことです。

しかし、今回は、先日の保護者会（7/6土）でもご説明したとおり、夏季休業中の宿題を大幅に縮減いたします。その理由は次のとおりです。

- 生徒個々により取り組める学習量には個人差がある。多めに一律の学習量を課す宿題は、個に応じた指導といえるか（生徒個々を大切に作る学習といえるか）。
  - 宿題はどうしても義務的な学習となる。義務的な学習にやりがいを感じられるか。
  - 宿題に対しては、とにかく終わらせることが第一義の目的となってしまう、本当の意味での学力の向上につながる学習になっていくか。
  - 生徒によっては夏季休業中も、塾や夏季講習に参加している。特に3年生の場合、受験勉強を行っていく中、学校の宿題が負担とならないか。
  - 生徒によっては、宿題が終わらずに溜まることで、夏休みの後半から憂鬱となり、学校に行きたくなくなる。登校渋りとなり、場合によっては不登校となる。
- 
- 人は、他者から指示されたり、言われたりするよりも、自分で考え、主体的に行動することの方がはるかにやりがいを感じる。学習においても同様である。
  - ワークシートやドリル的な学習ではなく、夏休みだからこそ、探究的な学習や調べ学習等に取り組んでもらいたい。自分で調べる過程を通じてこそ、本当の意味での学力が身に付く。
  - 通常の学校の授業はどうしても受け身の学習となる（先生の指示によって学習が進められていく）。学校を離れた夏休み期間だからこそ、自分自身の学力をしっかりと振り返り、自分で考え、主体的に学習に臨んでいく姿勢・態度を育んでもらいたい。自分で学習を計画する力を身に付けてもらいたい。

以上のことから、今回は生徒自身に「自分自身への夏休みの宿題」と題し、夏休みの学習計画を立案してもらいました。夏休みの学習計画を保護者の皆様にもご確認していただくこととなっておりますので、助言をしてくださりますと大変有難く存じます。

何とぞご理解ご協力をくださるようよろしくお願いいたします。